

2021年8月15日02版

「課題名：炎症性腸疾患患者の臨床経過に関する後ろ向き調査」に関する調査へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学では、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ベーチェット患者における臨床経過に関する後ろ向き調査に関する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院で上記診断を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただきたいと考えています。

【研究の目的】

潰瘍性大腸炎やクローン病を代表とする炎症性腸疾患（Inflammatory bowel disease: IBD）は小腸、大腸の粘膜にびらんや潰瘍ができる炎症性疾患であり、免疫異常、遺伝的要因、食習慣などの様々な要因が複合して発症すると考えられていますが、今なお原因不明の疾患であり、根本的な治療法は存在しません。これまでに当院で入院・外来にて加療を受けている IBD 患者は累計で 500 人を超えており、その経過もさまざまですが、これらの症例の治療経過、自然経過を後ろ向きに検討し、解析することは今後の IBD 診療の方向性を決定づけることにおいて有用であると考えられます。

本研究では IBD 患者の臨床経過を後ろ向きに解析することで、その適切な治療選択や自然経過について検討することを目的とします。

【研究の方法】

対象となる患者様について

2008（平成20）年1月1日以降、2024（令和6）年9月30日までで当院および北部医療センターにて外来受診、検査をされた IBD 患者様が対象となります。カルテ上の記録および病理組織標本を調べます。主な項目:性別、年齢などの臨床情報、内視鏡所見、術前総合診断、治療法、病理所見、治療経過など。

【資料の管理について】

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、2024（令和5）年9月30日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。尚、ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

研究責任者：京都府立医科大学 医療フロンティア展開学 准教授 高木智久

連絡先

京都府立医科大学 消化器内科

職・氏名 講師・内山和彦 電話:**075-251-5519** (消化器内科 医局)